

第9回ご家族向け研修  
コミュニケーションPart2  
こども発達支援センター青空

コミュニケーションの発達



2 

生理的欲求  
泣く  
「おなかがすいた」「おむつが気持ち悪い」

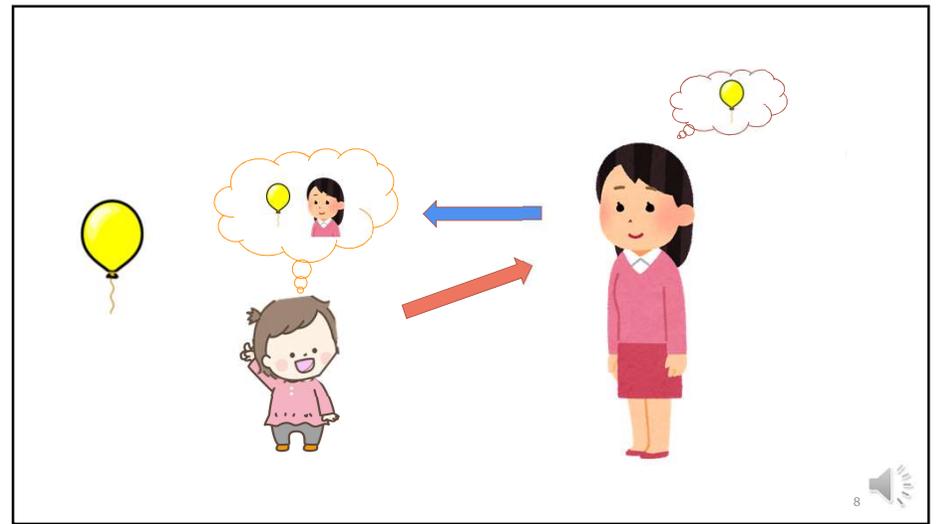
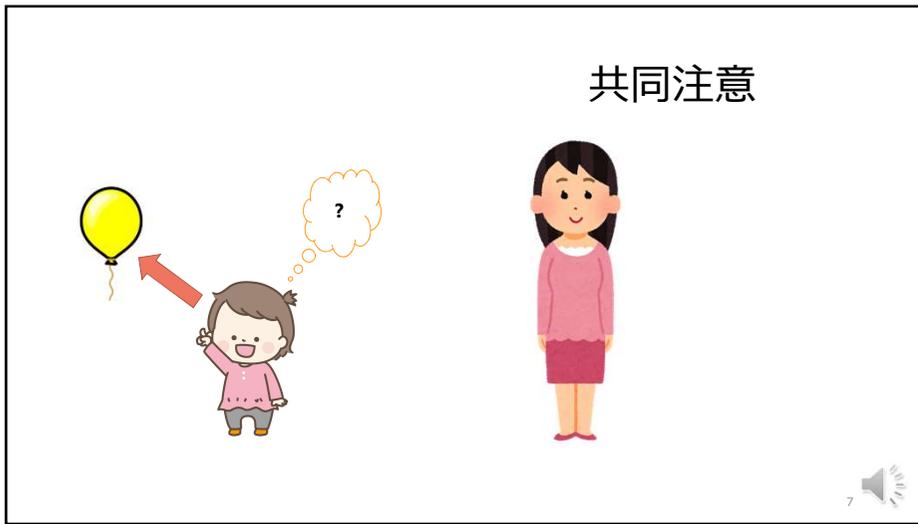
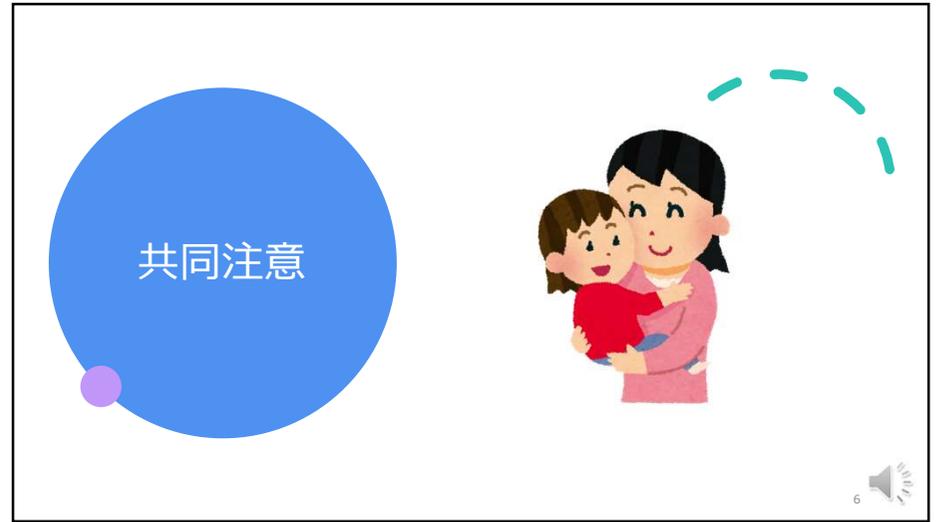
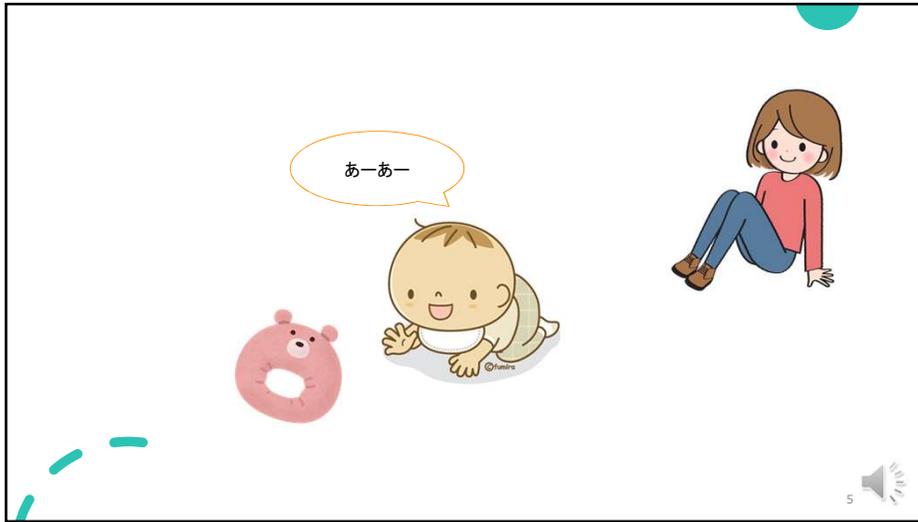


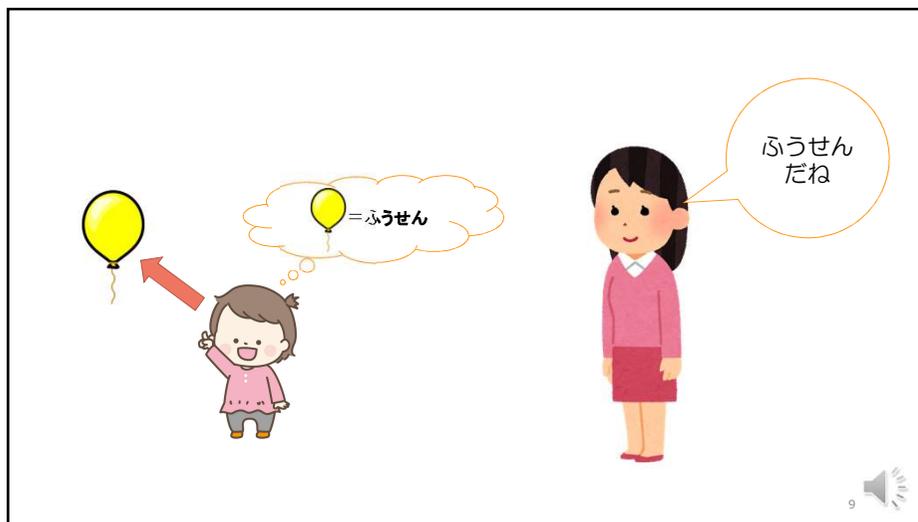
3 

意思伝達  
赤ちゃん「あーあー」  
お母さん「なに？」



4 





## 前言語の段階（理解）

- 自分の名前がわからなかったり、言われた物を持ってこれない
  - 状況の理解が難しい
  - 「決まった場面ならできる」ことがある
  - 絵や身振りの理解が難しい
  - 視線や発声、手さし（指さし）、相手（大人）の手をひっぱるなどの方法でコミュニケーションをしようとする
  - 相手（大人）の反応を楽しむ様子も見られる
  - 模倣がみられる
  - 生理的な欲求（眠い、暑い・寒い、お腹がすいているなど）がコミュニケーションに大きく影響する
  - 要求がみられるものの、はっきりしていないこともある
- 10

## 単語がわかる段階

- 状況と無関係に物の名前が理解できる
  - 見えないところの物を、ことばで言われて持ってくるができるようになる
  - ことばを模倣したり、自分から話し始めるようになる
  - 要求や報告の表現が増えてくるが、会話は難しい
- 11

## 文がわかる段階

### < 2 語連鎖 >

- 周囲からの話しかけはかなりわかるようになるが、わからないと無反応になる
- 会話は決まったことなら応じることができるが、やり取りは難しい

### < 3 語連鎖以上 >

- 簡単な会話ができ、絵本やテレビなどの物語にも関心を示す。近い過去のことなら記憶していて経験を話すことができる
  - 自己の行動コントロールが徐々にでき始める
  - 説明能力が向上し、ことばで物事が考えられるようになり、内容や話し方を調整しながら人と会話ができるようになる
- 12

## コミュニケーションとは・・・

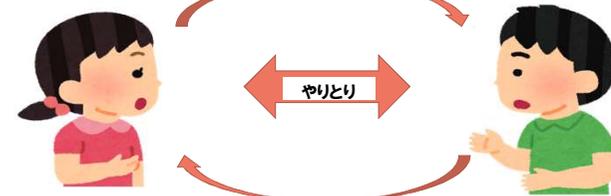
- 他者にメッセージを伝える（表現）
- 他者からメッセージを受け取る（理解）
- 「伝え合う」という相互作用（やり取り）



13



メッセージを伝える  
（表現）



メッセージを受け取る  
（理解）

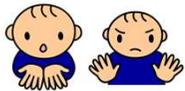
言語コミュニケーション(ことば・文字・手話・テクノロジーなど)  
非言語コミュニケーション(身ぶり・視線・表情・しぐさ、声のトーン、距離など)

14



## コミュニケーションの機能

要求・拒否



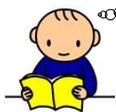
報告



対人・注意喚起



自己調整



静かにしなうちゃ

思考



どれにしようかな

15



## コミュニケーションが苦手とは・・・

- 相手に自分の意思をうまく伝えられない
- 相手の意図がうまくみ取れない
- 話しことば以外のコミュニケーションが難しい

16



## 相手に自分の意思をうまく伝えられない

話しことばがあっても、相手との意思疎通がうまくいかない

- 一方的（相手の反応には頓着しない）
- オウム返し
- 独り言
- 正直すぎる表現（相手の立場に立って考えることが苦手）
- アクセントや音量 など

17



## 相手の意図がうまく汲み取れない

- ことばの発達が遅れることもある  
ことばだけでのコミュニケーションが難しい
- 聞こえていても意味が通じていない  
ことばの再現はできるが、意味を理解していない  
耳からのことばを理解するのが難しい
- 皮肉や冗談が通じず、真に受けしてしまう  
字義どおりに捉えてしまう

18



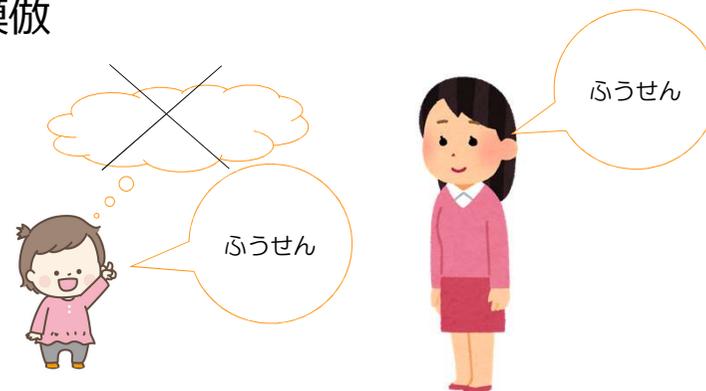
## ことばの表現



19



## 音声模倣



20



## 話しことば以外のコミュニケーションの特徴

- 身振りや指さしがうまく使えない
- 視線を使ったコミュニケーションがうまくできない
- 言外の意味や暗黙の了解事項、話の文脈などの理解が難しい

→「空気が読めない」

21



## 比喩・皮肉・冗談



22



## うまくコミュニケーションできないと

- 意図が分からず、注意されたり、制止されたり、叱られたら混乱する
- 自分の知っていることや、聞き取れた言葉から何とかしようとする→聞き違いや勘違い
- うまく伝えられないために、黙り込んだり、行動で表そうとする
- 分からないことが続くと、精神的に疲れてくるので、なるべく負担を減らそうとする（結果的に、同じパターンを繰り返す、変化を好まなくなる）



コミュニケーション  
の支援



## こどもたちは困っている



## 何故、困っているのか

- 場面の色々な情報を集めて臨機応変に考えることが苦手（中枢性統合の弱さ）
- 見たものに引っ張られたり、自分の考えにとらわれてしまいやすい（独特の注意の向け方）
- 色々なことを同時にすることが苦手（実行機能の困難）
- 過去はしっかり覚えているが、未来を想像することは難しい
- 外から観察することは得意だが、理由を説明することは苦手
- 心の理論の弱さ

## 大事なことは

その人が「自己肯定感をもって生きていく」ことができるように、より効果的なコミュニケーションスキルを、できるだけ視覚的な方法を用いて教える

## 支援に必要なこと

- 環境を整える
- こどものことをよく知る
- 伝え方を考える（分かりやすい方法）

## 環境を整える

こどもが安心できる環境を整える

- 環境の意味や「何をすればいいのかわかりやすくする
- 見通しが持てるようにする
- 本人の出来るところから

安心があってはじめて  
学ぶことができる



## こどものことをよく知る（評価）

- 大人の理想ではなく、今のこどもの力を客観的に見る

目の前のことではなく、10年後、15年後のために、今、できるだけ支援を積み重ねることが大切



コミュニケー  
ション  
表現の支援



31



## どんな手段で表現する？

- 適切な要求の手段 **を知らないと**  
→直接取る、力づくで取る、あきらめる
- 適切な拒否の仕方 **を知らないと**  
→泣く、投げる、逃げる、自傷、他傷
- 不安を適切なことばで表現 **できないと**  
→不適切なせりふ、質問
- 特定の相手・場面で表現  
→他の場合には不適切な行動、あきらめる



## 自分の意思を伝えてもらいたい

- 無理なく伝える伝達手段を選択し、複数の手段を併用する
- 潜在する伝達内容を見つける
- 伝達したくなる場面を設定する
- 伝達の機能や内容を広げる（援助要求・相談スキルなど）
- 気持ちの表現を支援する

33



## 表現の手段

- 直接的な行動（連れて行く）
  - 身振り
  - 物を使う
  - カード
  - 文字
  - サイン（手話・マカトン）
  - 話しことば
- ※「今、どのようなコミュニケーションスキルをもっているか」  
「そのスキルをどのような場面で使えるか」



## 注意喚起



視覚的にわかりやすく



場面にあった言葉をモデリング

35



## 欲しいものがあるときには

PECS（絵カード交換システム）

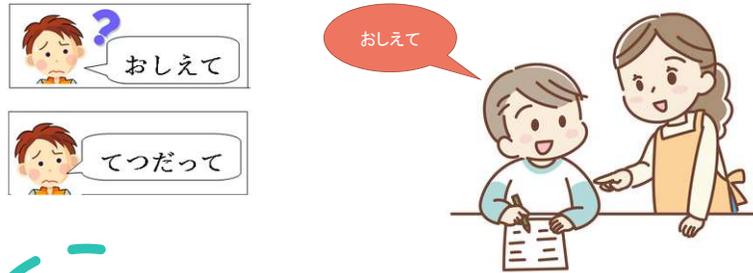


36



## 困ったときには

リマインダー（場面での手がかりのカード）



## 場面にあった言葉



## あったか言葉・ちくちく言葉



## 目標（自発的なコミュニケーション）



- 言語だけでなく、視覚的な手がかり、カードの使用、身振りなど本人が使える方法  
→大切なのは“自発”

## 表現への支援とは

- 単に言語スキル（正しいことば・豊富な言語）を教えるのではなく、  
コミュニケーションスキル（実際に役立つ、意志を伝える力）を教えるということ
- 般化：場面や人が違って使える



## 表現への支援で大切なこと

「伝わった！」実感がもてるようにする  
（受け手はすぐに応え、本人に分かりやすい反応で結果を感じられるようにする）

コミュニケーションへの意欲を育てる  
（成功体験を積み、「伝えたいことがある」と気づけるようにする）



コミュニケー  
ション  
理解の支援



43



## もう一度考えてみてください

- ことばで言ったら分かる
- 「ろうかに行くよ」と言われたら一人で行ける？
- 言葉以外のサインは出ていないか？
- 他の人の動きを見て行動していないか？
- 限定的な内容と場所での理解ではないか？



## 意図を受け取ってもらいたい

- 視覚的な支援の活用
- 情報（特に聴覚情報）を伝える際の一貫性
- 直接話法で伝える
- 肯定的な表現
- 必要なことをその場で本人にわかる方法で
- 本人が興味を持てるように
- スモールステップで

45

## 視覚的指示・手順書

待つ椅子



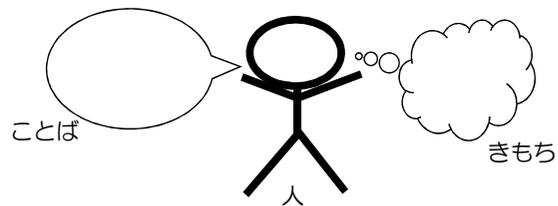
帰りの手順



46

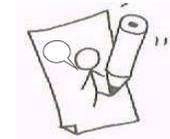
## コミック会話とは

- 会話を線画であらわしたもの
- 絵によって、会話のやりとりを示し、コミュニケーションを分かりやすくする



## コミック会話

- 報告：あったことを話す、伝える
- 説明：今していることを話す
- 計画・予告・可能性：先のことを話す
- 人の言動を明確にし、気持ちに注目する



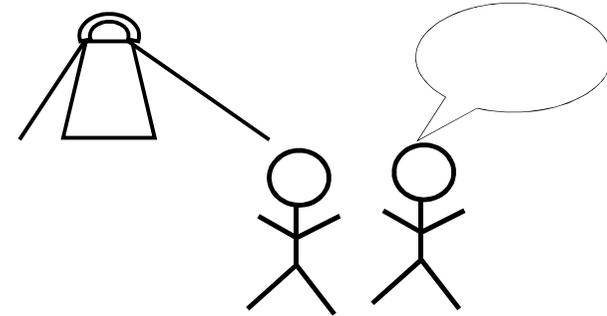
## コミック会話



- 「いつ」「どこで」の情報を特定してから話す（この2つの情報が記憶を呼び起こすのを助ける）
- 普段から、日常会話や世間話、嬉しかったこと・楽しかったことを話し、コミック会話によりイメージを作っておくとよい
- →「会話が楽しい」と思える
- →ネガティブな内容でも「話したい」という思いにつながる



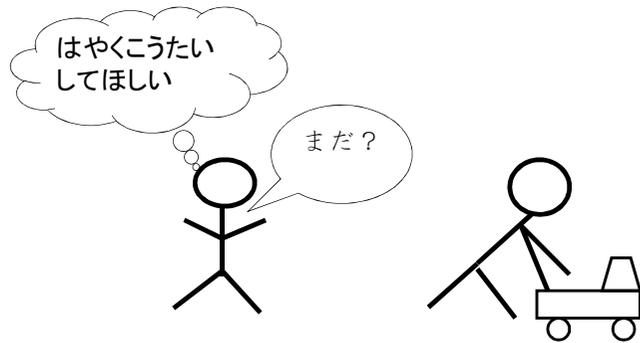
## 日常会話、世間話、報告（描きながら）



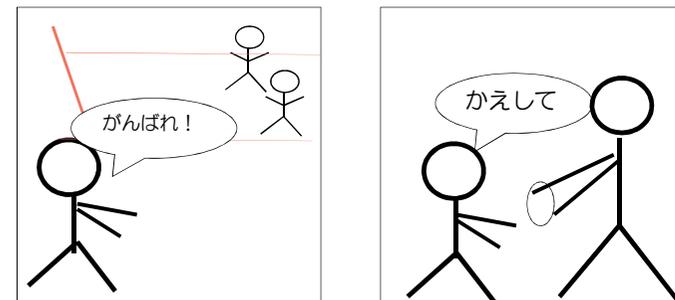
どこ、だれがいた、なんといった



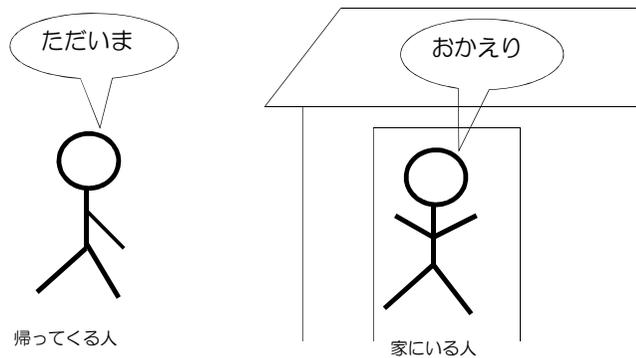
## 真意



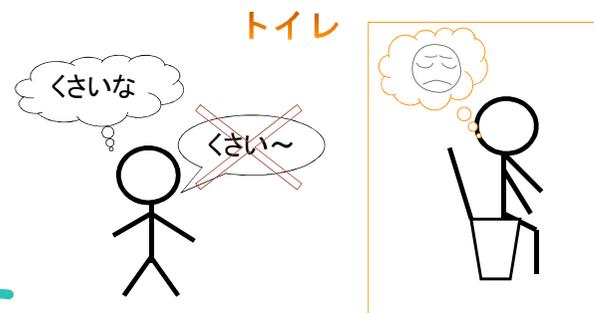
## よりよい行動



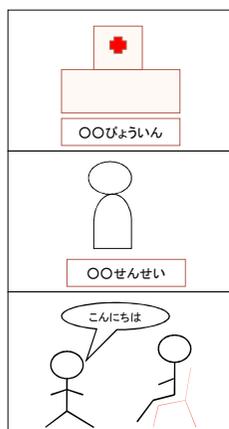
## 関係理解 (挨拶)



思うのはしかたないけれど  
言われると傷つく...



## スケジュール セリフ入り



振り返り・選択肢を使って  
誰と・何で・気持ちは？





## 暗黙のルールを理解



名前をよばれてから話そう

時間を決めて遊ぼう

誰かが物を落したら拾ってあげよう



## まとめ

### 「コミュニケーション」の支援は

- 自ら学ぶことは難しいが、教えられれば分かる
- 子どもに伝わったという実感が持てるようにする
- 伝えようとする意欲がわくようにする



コミュニケーション(人とのやりとり)することが  
楽しいと思えることが大切です



ありがとうございました

